ママって私に勉強しなさいって言ったことないよね！

伊藤 智子
Ito Tomoko

自ら学習する子に育つ＝幼児期の言葉の学習が鍵

青山ライフ出版

はじめに

娘が大学生になりました。大学の入学式に親が出席することが珍しくなくなりました。自分の時のことを思い起こすと「親が顔を出すなんて」と躊躇する気持ちも少しありましたが、「何事も経験」と足を運んでみました。

子どもの大学入学式は、親の「子育て卒業式」と言われたりもします。二週間前の高校の卒業式、制服姿で並んだクラスの仲間、その中で同じ大学に進んだ友人達と、今度はスーツ姿で並んではしゃいでいるではありませんか。カメラを覗いている私には、やはり感慨深いものがありました。「よくぞ、ここまで育ってくれた」と。

ところで、娘は私が結婚後十年が経ちようやく授かった子どもです。その六年前から現在に至るまで、私は幼児教育の講師をしています。石井勲先生の教えに基づく、

子どもの能力開発教室の講師です。ですから、私の子育ての基本は石井勲先生から教えていただいたものです。

赤ちゃんは、生まれてから幼児期の教育、とりわけ母国語の教育をしっかり施しておけば、そののちは放っておいて大丈夫というものです。私は石井勲先生のこの教えを信じて、娘が小さいうちは、たくさん言葉を投げかけ、絵本を、とりわけ漢字かな交じり文で書かれた絵本を読み聞かせてきました。そうして中学生にもなれば娘に対してとやかく口出しをすることはしませんでした。高校生になると自ら学習しようという意欲にかられた娘を目の当たりにすることができました。大学受験に際しては塾に行く必要はありませんでした。

石井勲先生に出会っていなかったら私はどういう子育てをしていたのだろうと、ふと考えることがあります。世の中には子育ての情報が溢れかえっています。おけいこごとは何をさせたら良いか、受験はどうしたら良いか、親は気持ちを急きたてられ、惑わされます。あれもこれもとおそらく気持ちがアップアップしていたに違いありま

せん。幼児期に言葉の教育をしっかり施しておけば、大切なものは自ずと後からついてくるのですね。石井勲先生に出会うまでは私達夫婦に子どもを授けなかった、神様の素敵な計らいに感謝しています。

目次

はじめに……3

第一章　石井 勲先生の教え……11

1　親から子どもへの最大のプレゼント……12
2　人は言葉で物事を考える……13
3　三つ子の魂百まで……14
4　最初に聞いた言葉を積み重ねていく……16
5　幼児は言葉を通して記憶する……18
●見返りを求めずただインプット……20
●意識してたくさん話しかける……22

●四季を感じて品性を養う……24
●長めの言葉がけで集中力を付ける……29
6　適時教育……30
7　漢字は「ひらがな」より易しい……33
8　読解力を付ける漢字かな交じり文……39
9　読むことと書くことは別とする……45
10　ひらがなの学び方……47
11　自然に覚えたものは忘れない……49
12　幼児は繰り返しが好き……53
13　幼児は全体を捉える……54
14　読書好きな子に育てるには……57
15　古典に親しむ……60
16　自ら学習する子に育てるには……64
●目と耳とを同時に働かせる……68

●まず良田を耕す……69
●自分で発見できた喜びを与える……72
●テストをしない……75

第二章　絵本の読み聞かせ……77

幸せをもたらす絵本の読み聞かせ……78
1　読み聞かせはスキンシップ……81
2　書かれている情報を素直に伝える……83
3　子どもは絵本一冊丸暗記……84
4　繰り返されることが心地好い……86
5　読む本は何でも良い……88
6　子どもはお話を聞くのが大好き……95
7　何歳になっても聞かせてあげて……98
8　絵本を使って道徳教育はしないで……102

9　読み終えて感想を聞かないで……103
10　絵本の読み聞かせがもたらしてくれる力……105

第二章　幼児期にこそ投資……109

1　幼児期の投資は成長後に施すより見返りが大きい……110
2　子どもは社会みんなのもの……114
3　保育施設の課題……117
4　就学前教育の中身…「内言」を育てる……122
●具体例……124
5　大学受験にはお金をかけなかった……130
終わりに……134